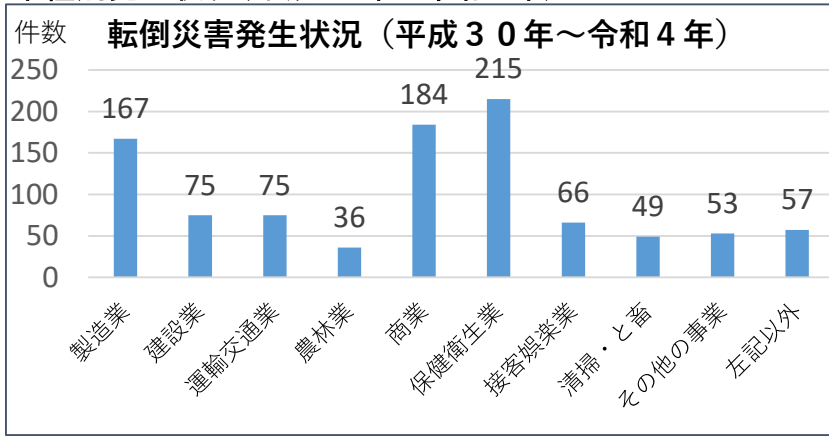


転倒災害の発生状況【徳島県】

① 業種別発生状況（平成30年～令和4年）

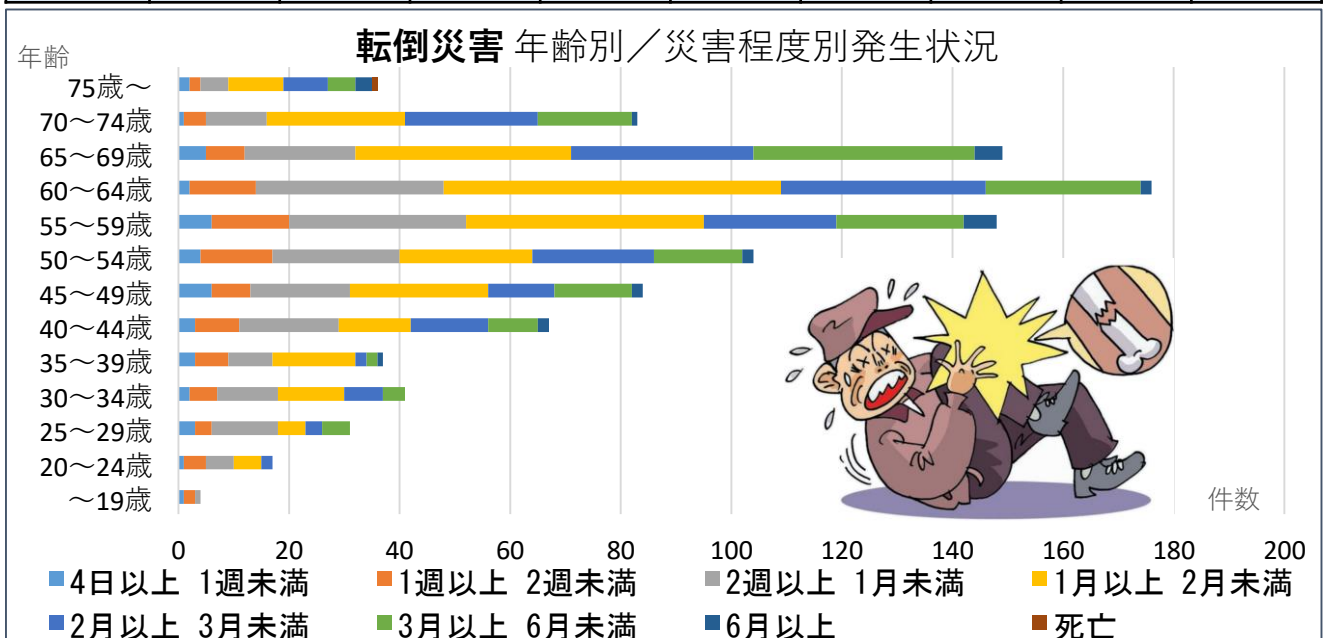


徳島県内における過去5年間の「転倒」による死傷者数は、合計で977人となっており、業種別の内訳を見ると、保健衛生業が最も多く、次いで商業、製造業の順となっている。

資料出所：労働者死傷病報告による

② 年齢別／災害程度別発生状況（平成30年～令和4年）

程度 年齢	4日以上 1週未満	1週以上 2週未満	2週以上 1月未満	1月以上 2月未満	2月以上 3月未満	3月以上 6月未満	6月以上	死亡	計
75歳～	2	2	5	10	8	5	3	1	36
70～74歳	1	4	11	25	24	17	1		83
65～69歳	5	7	20	39	33	40	5		149
60～64歳	2	12	34	61	37	28	2		176
55～59歳	6	14	32	43	24	23	6		148
50～54歳	4	13	23	24	22	16	2		104
45～49歳	6	7	18	25	12	14	2		84
40～44歳	3	8	18	13	14	9	2		67
35～39歳	3	6	8	15	2	2	1		37
30～34歳	2	5	11	12	7	4			41
25～29歳	3	3	12	5	3	5			31
20～24歳	1	4	5	5	2				17
～19歳	1	2	1						4
計	39	87	198	277	188	163	24	1	977

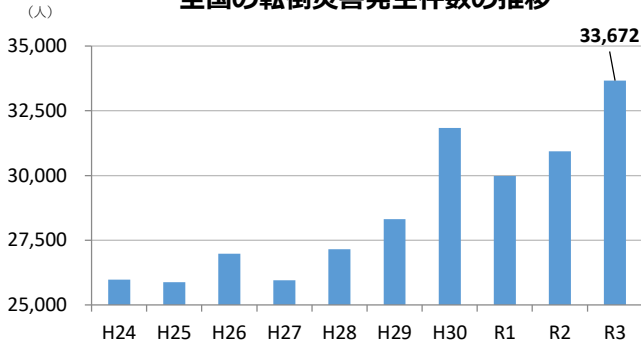


年齢別では60歳から64歳が最も多く、50歳以上の合計では696件となり、全体の71.2%を占めている。

災害程度別では、「1か月以上 2か月未満」が最も多く、1か月以上の合計では653件となり、全体の66.8%を占めている。

職場での転倒事故を減らしましょう！

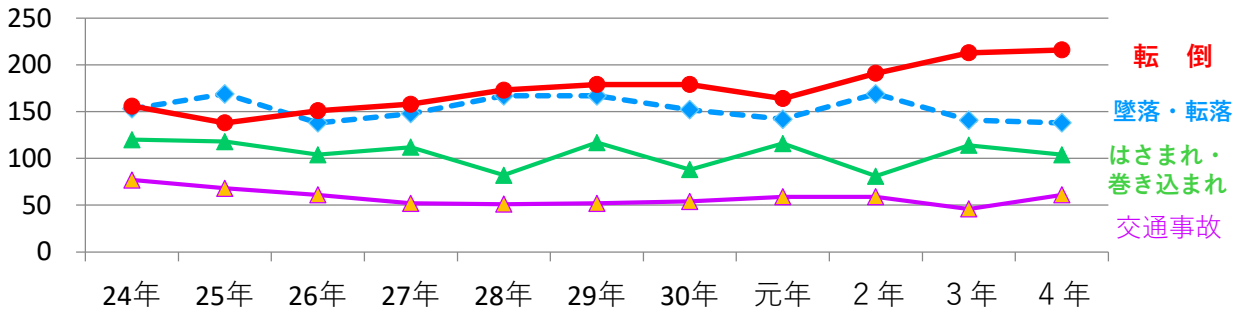
全国の転倒災害発生件数の推移



令和3年に仕事中の転倒災害で4日以上
の休業をした方は、全国で約33,000人に
上り、事故の型では最も多くなっています。
徳島では毎年170人前後で推移していま
しが、令和元年以降増加し令和4年は216
人となり、新型コロナウイルスり患者を除
くと労働災害全体のおよそ2割が転倒災害
となっています。

高齢者が転倒した場合、重篤な災害となることが多く、労働者の高齢化が進む現代ではリスクアセスメント、危険個所の見える化などにより転倒災害防止対策に取り組みましょう。

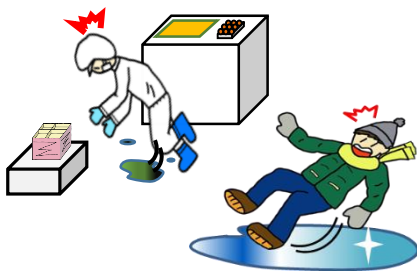
徳島県内の事故の型別労働災害発生状況



転倒災害の種類と主な原因

転倒災害は大きく3種類に分けられます。危険個所の「見える化」を図りましょう

滑り



【主な原因】

- 床が滑りやすい素材である
- 床に水や油がこぼれている
- 滑りやすい異物が落ちている
- 凍った水溜りを歩いた

つまずき



【主な原因】

- 床の凹凸や段差がある
- 床に放置された荷物や商品がある
- 通路に台車、パレット、機器類や工具などが出ている

踏み外し



【主な原因】

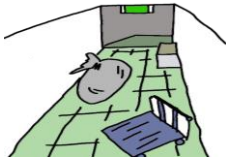
- 大きな荷物を抱えて足元が見えない状態で移動した
- 照度不足のため段差が見づらい箇所がある
- 手すりを取り外されていた、手すりがなかった

転倒災害防止対策のポイント

転倒災害防止対策により安心して作業が行えるようになり、作業効率が上がります。できることから少しずつ、確実に取り組みましょう。

設備管理面の対策 [4S（整理・整頓・清掃・清潔）]

- ◆ 歩行場所に物を放置しない
- ◆ 床面の汚れ（水、油、粉等）を取り除く
- ◆ 床面の凹凸、段差等の解消



転倒しにくい作業方法 [あせらない 急ぐ時ほど 落ち着いて]

- ◆ 時間に余裕を持って行動
- ◆ 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行
- ◆ 足元が見えにくい状態では作業しない



その他の対策

- ◆ 作業に適した靴の着用
- ◆ 職場の危険マップの作成等による危険情報の共有
- ◆ 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起



正しい靴の選び方

- ◆ 靴は、自分の足に合ったサイズのものを使いましょう。
- ◆ 小さすぎる靴は足指が動かしにくく、バランスを崩したときに足の踏ん張りがきかなくなります。
- ◆ 大きすぎる靴は、歩行のたびに足が前後斜めに動いて、靴のつま先やかかどが、足の動きに追従できなくなります。

以下のポイントにも注意して、作業に合った靴を選びましょう。

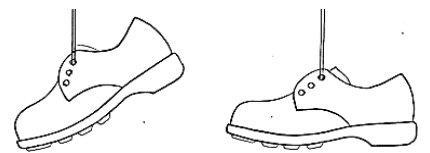
靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。



靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になりやすく、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。

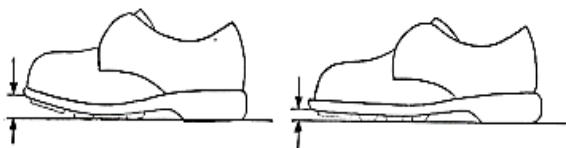


靴の重量バランス

靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく（トゥダウン）、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じやすくなります。

つま先部の高さ

つま先部の高さ（トゥスプリング）が低いと、ちょっとした段差につまずきやすくなります。高齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずきやすくなります。



靴底と床の耐滑性のバランス

滑りやすい床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑りやすさの程度に応じたものとする必要があるため、靴はできるだけ履いてみてから選定することをお勧めします。